

中村 美安子

神奈川県立保健福祉大学 助手

自立生活支援のための要介護者への技術移転に関する研究：
生活方法分析からのアプローチ

本研究では、サービス利用が多い群と少ない群を比較分析し、その生活方法の違いから自立支援・介護予防方法のあり方を研究した。その結果、要介護者の中には、生活方法の工夫を様々試み考案しているものが存在しており、それらの工夫は他の要介護者にとっても身近で活用しやすい方法であると考えられたが、このような「できないことができるようになるための〈方法〉」に関する情報の不足やそれを教える「情報の媒介者」が意識的に配置されていないために、利用者まかせのサービス利用環境になってしまい、サービス利用が自立支援に十分な効果を発揮し得ない状況にあることが示唆された。

要介護者を支援する援助職等が、福祉サービス利用情報だけでなく、このような生活の工夫の中から生まれる「できないことができるようになるための〈方法〉」を「情報」として意識的に要介護者に提供することを援助やサービスとして明確に位置づけることが必要である。自立支援・介護予防の方策のひとつとして、利用者の生活環境に生活を営む上でのヒントとなる「生活方法に関する情報の整備」を行い、その情報を収集し届ける「媒介者の役割」を明確に設定しそれを養成する、「生活方法に関する技術移転システム」が必要である。